

平成28年度

第1回 次期学習指導要領対応授業力向上研修

カリキュラム・マネジメントについて

専門支援課特別支援班

カリキュラム・マネジメント

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み

学校教育目標を実現するために

教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み

カリキュラム・マネジメント

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み

カリキュラム・マネジメントの3側面（論点整理）

- i) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していくこと。
- ii) 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、**教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立**すること。
- iii) 教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。**

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)補足資料(2)より抜粋 カリキュラム・マネジメント「教育課程」と「指導計画」の接続

学習指導要領を踏まえて「教育内容」を明確にする段階(核となるカリキュラムの明確化)

達成を
目指して

学校教育目標

- ・育成を目指す資質・能力
- ・めざす児童生徒像の明確化
- ・卒業までに身に付けてほしい力の検討

何を

学習指導要領に示す各教科等の目標・内容等

①指導内容の選択

- ・基礎的・基本的な指導内容の明確化
- ・指導内容の精選・重点を置くべき指導内容の明確化

②指導内容の組織

- ・発展的、系統的に指導内容を配列・組織
- ・各教科等間の指導内容の相互の関連

③授業時数の配当

- ・各教科等の年間授業時数を定める
- ・学期、月、週ごとの各教科等の授業時数を定める
- ・各教科等の授業の1単位時間を適切に定める

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)補足資料(2)より抜粋 カリキュラム・マネジメント「教育課程」と「指導計画」の接続

教育内容等を踏まえて「指導計画」を作成する段階(実施するカリキュラムの作成)

どのように

指導の形態ごとに指導計画の作成

①指導の形態の選択

各教科等別指導、各教科を合わせた指導、各教科等を合わせた指導

②指導内容の組織、時数の配分

年間計画、学期計画、月・週計画、単元(題材)計画等

③時間割の編成

学習グループ、指導体制の検討

④個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成

カリキュラム・マネジメント

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み

カリキュラム・マネジメントの3側面（論点整理）

i) **教科横断的な視点**

各教科等の教育目標を達成するために、学校現場で必要となる教科横断的な視点で、その目標達成に必要な教科内容を組織的に配列していくこと。

ii) 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

（つなぐ）

iii) 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

教科横断的な視点から

アクティブ・ラーニング

地域・社会・世界

「社会に開かれた教育課程」を実現する

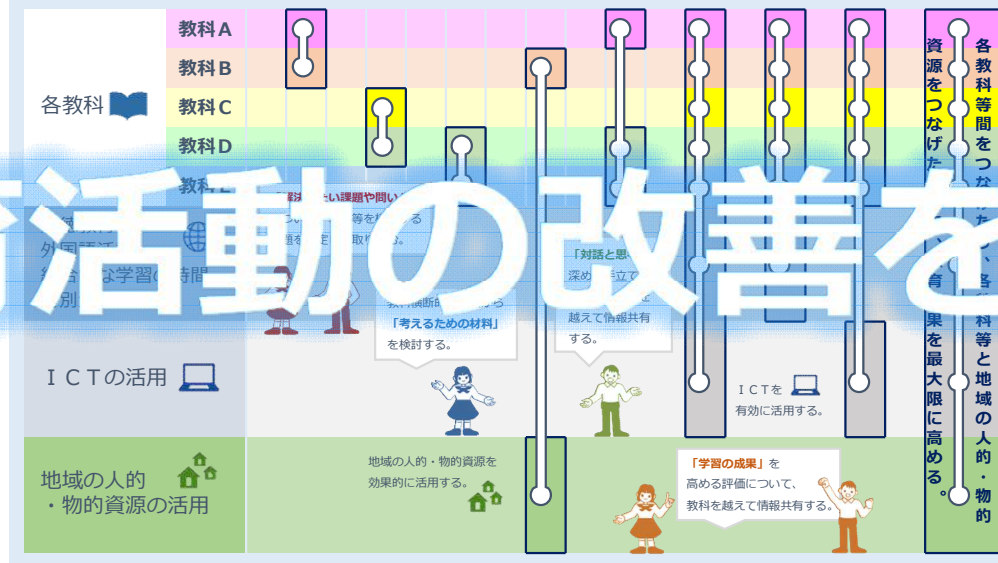
□社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい社会創りを目指すという理念を、教育課程を介して社会と共有していく。

□社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していく。

Plan

Do

各教科等をつなぐ教育課程の編成と実施例

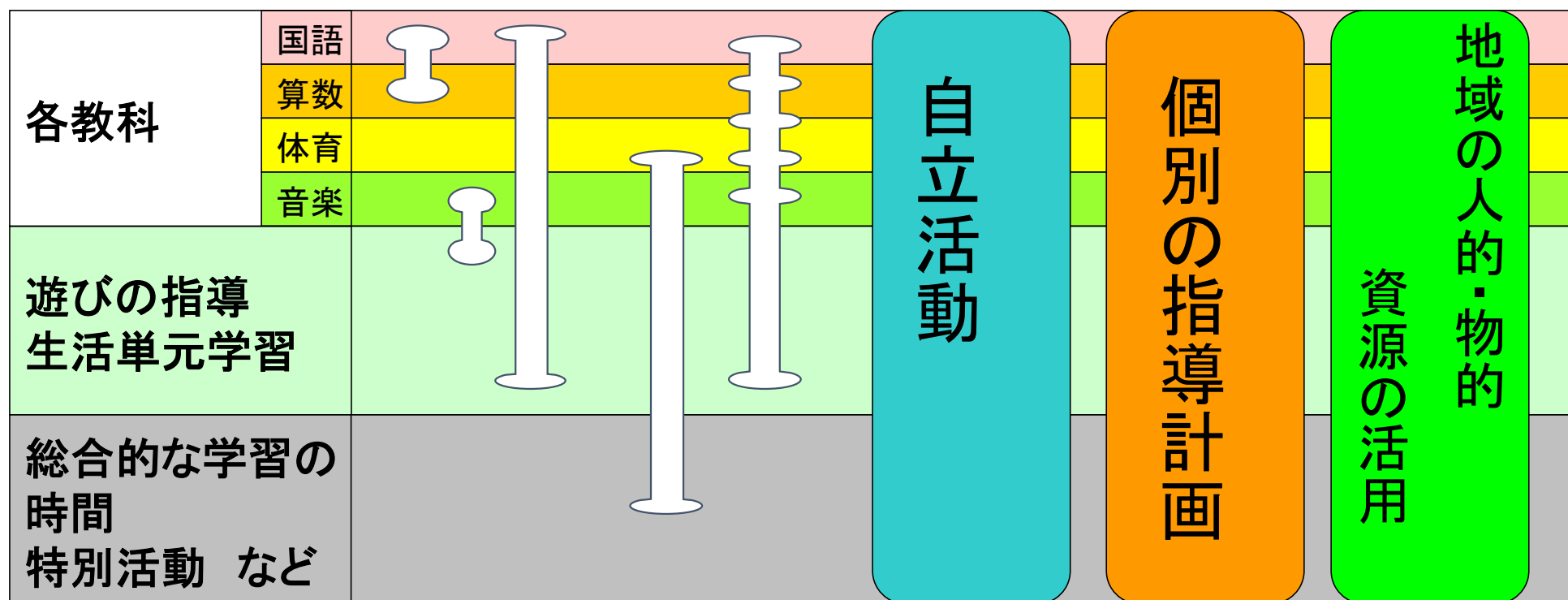


教育活動の改善を図る

Action

Check

各教科等をつなぐ教育課程の編成 (知的障害特別支援学校小学部の例)



次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)補足資料(2)より抜粋

自立活動の改善・充実の方向性

発達段階を踏まえた自立活動の内容の改善・充実

実態把握、指導目標の設定、項目の選定、具体的な指導内容の設定までのプロセスをつなぐポイントをわかりやすく記述

自立活動における多様な評価方法をわかりやすく記述

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)補足資料(2)より抜粋

キャリア教育の改善・充実の方向性

- 幼稚部、小学部段階から、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促す「**キャリア教育の推進**」を明確にする。
- 障害の程度が**重度の児童生徒のキャリア教育の考え方**について、キャリア発達の視点から示す。
- キャリア発達の視点を踏まえた**学習状況評価の充実**
- キャリア発達を支援するための**カリキュラム・マネジメントの具体**を示す。(教育活動全体への働きかける仕組み)

アクティブ・ラーニングと

地域・社会・世界

「社会に開かれた教育課程」を実現する

- 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい社会創りを目指すという理念を、教育課程を介して社会と共有していく。
- 社会や世界に向き合い関わり合っていくための求められる資質・能力は何かを、教育課程において明確化していく。
- 学校が単独で目指すのではなく、目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。

「論点整理」より抜粋

アクティブ・ラーニング



Plan

Do

カリキュラム・マネジメントを

各教科等をつなぐ教育課程の編成と実施例



連動させる

Action

Check

アクティブ・ラーニング
の視点からの不断の授業改善

カリキュラム・マネジメント
による組織運営の改善

主体性・多様性・協働性
学びに向かう力 人間性 など

個別の知識・技能

思考力・判断力・表現力等

社会に開かれた教育課程の重点

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り開いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化して育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

中央教育審議会教育課程企画特別部会論点整理（2015, 8月）より

教職員一人一人が

アクティブ・ラーニング

学習の成果 解決した課題や問題
対話と思考 考えるための

地域・社会・世界

「社会に開かれた教育課程」を実現する

□社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい社会創りを目指すという理念を、教育課程を介して社会と共有していく。

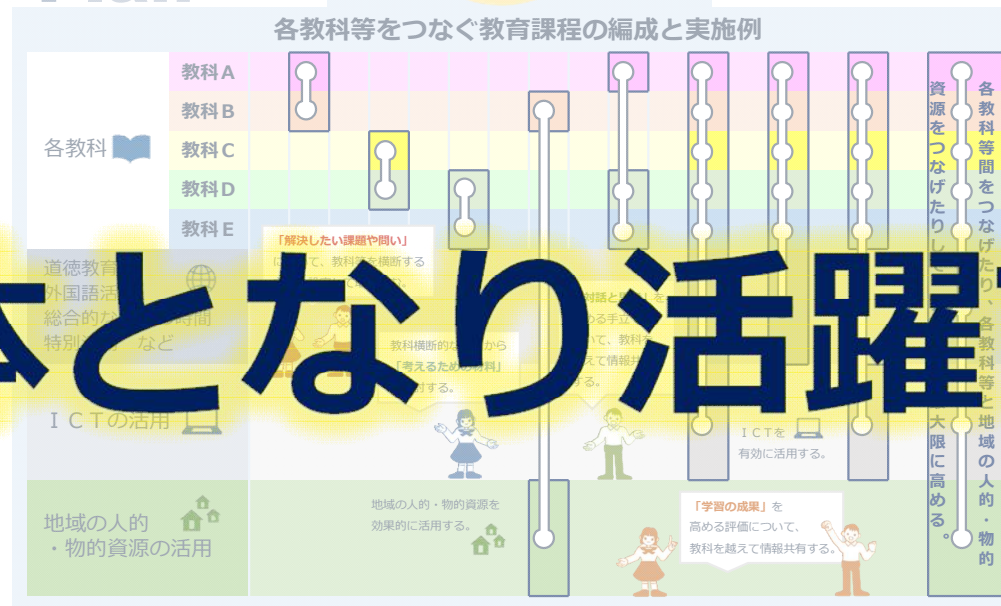
□社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していく。

□学校教育を学校内に閉じずに、目指すところを社会と共有・連携していく。

「論点整理」より抜粋

主体となり活躍する

各教科等をつなぐ教育課程の編成と実施例



Action

Check

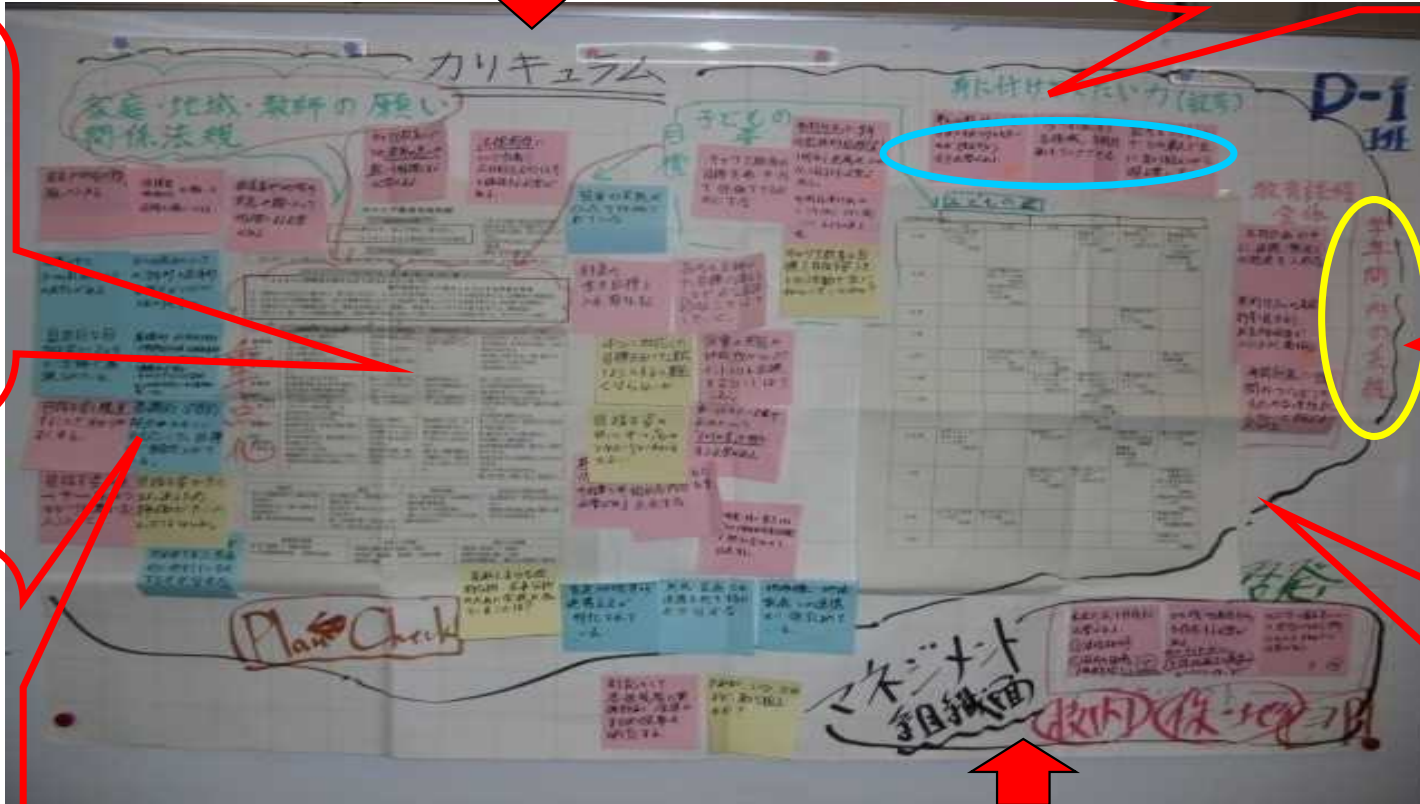
具体的な取組例

カリキュラム面(目標、内容、方法、評価)

③付箋をグループ化する。

①A3に拡大した全体計画を真ん中に貼る。

②周りに付箋をはっ
ていく。



④小見出しをつける。

⑤相互関係を
を線で結ぶ。

マネジメント面(組織構造、組織文化、外部等)

平成28年度

第1回 次期学習指導要領対応授業力向上研修

演習：カリキュラム・マネジメントの
校内普及に向けて

専門支援課特別支援班 班長 松本 高治

演習の進め方

- 1 演習の説明（5分）
- 2 「児童生徒の資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメント」について
 - (1) 個人作業（15分） 授業改善のための自校の取組①
児童生徒の資質・能力を育てるためのカリキュラムとして、現在取り組んでいくこと・これから取り組んでいきたいと思うことのキーワードを6つの項目ごとに挙げていく。
 - (2) グループ協議（20分）
個人作業で作成したシートを基に発表し、意見交換を行う。

(3) 個人作業（5分）

他校の取組や意見交換を参考に加除訂正し、考えを整理し、自校の取組のポイントに

なるキーワードに○をつける。

(4) グループ内での発表（5分）

グループ内で発表し、情報共有する。

3 実践課題とまとめ

(1) 実践課題の説明～授業改善のための自校の取組②（2分）

(2) 個人作業（5分）

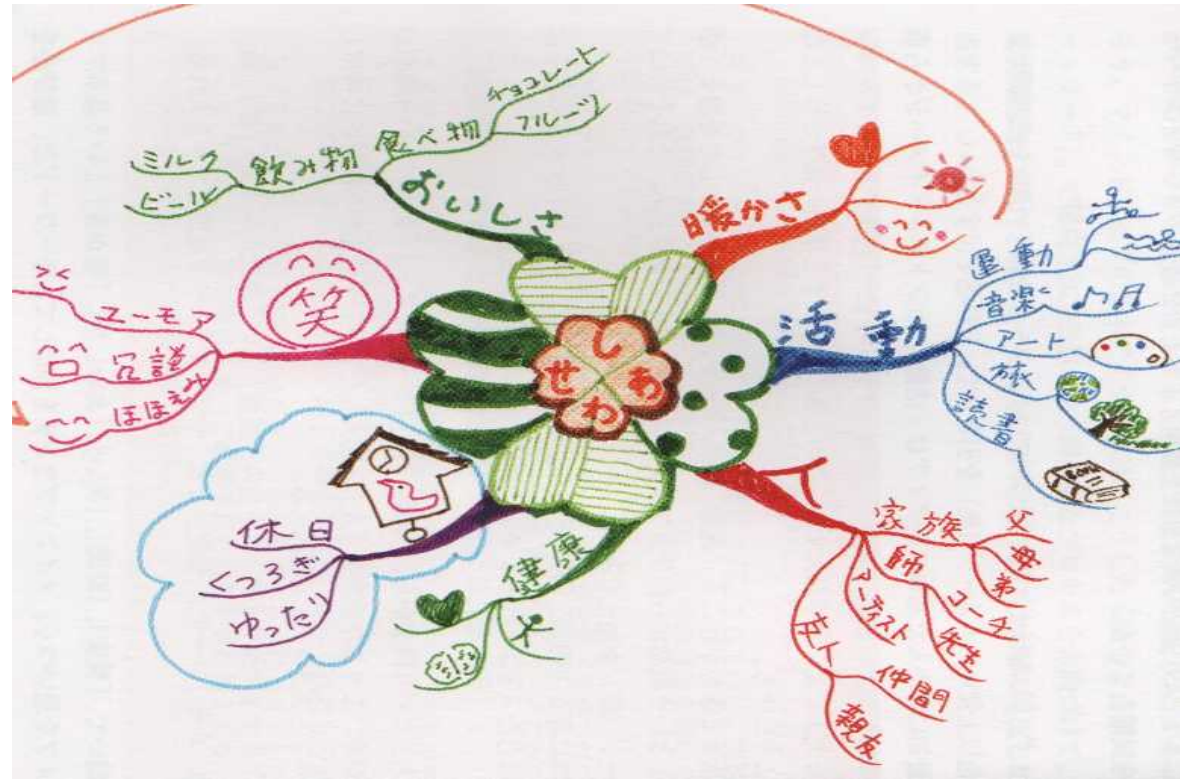
「実践課題と取組」にメモ書きをする。

(3) まとめ（3分）

「マインドマップ」を参考にした個人作業の説明

1 マインドマップとは何か

マインドマップは放射思考を
図で表したものだ。
放射思考とは、人間の脳が
思考し、アイデアを生み出す
過程のことである。

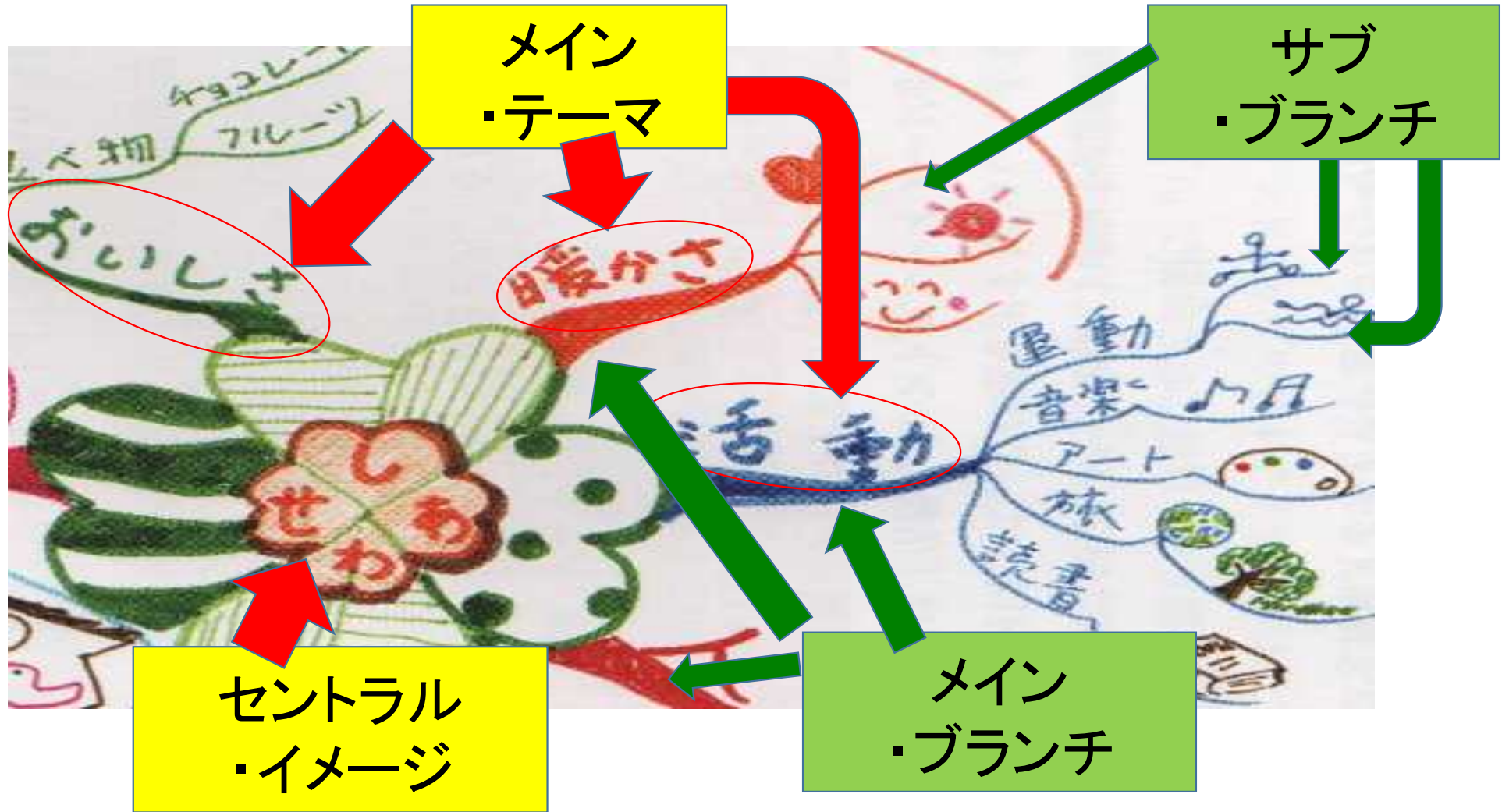


「新版 ザ・マインドマップ 脳の無限の可能性を引き出す技術」
トニー・ブサン バリー・ブサン著 近田美紀子訳 より引用

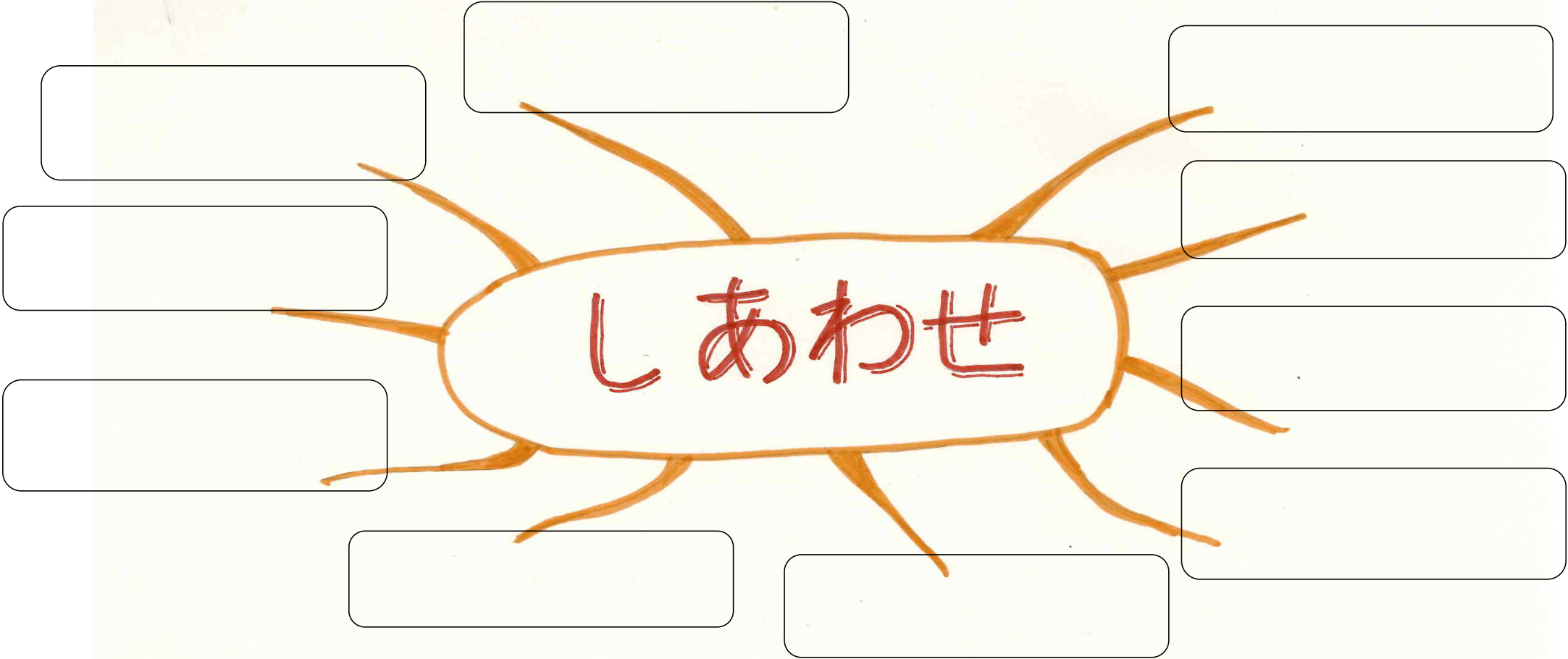
2 マインドマップの特徴

マインドマップは思考全般に使えるツールで、考えていることを視覚化して図で表す。

- 1 セントラル・イメージを使って、マインドマップのテーマを表す。
- 2 セントラル・イメージからブランチを伸ばす。
 - ・まず、マインドマップを構成するメイン・テーマ（基本アイディア）に分けて、それをセントラル・イメージから伸ばすメイン・ブランチに記入する。
 - ・メイン・ブランチから2次的なテーマを展開する。
- 3 それぞれのブランチ上には、キーワードかキーイメージを一つ記入する。

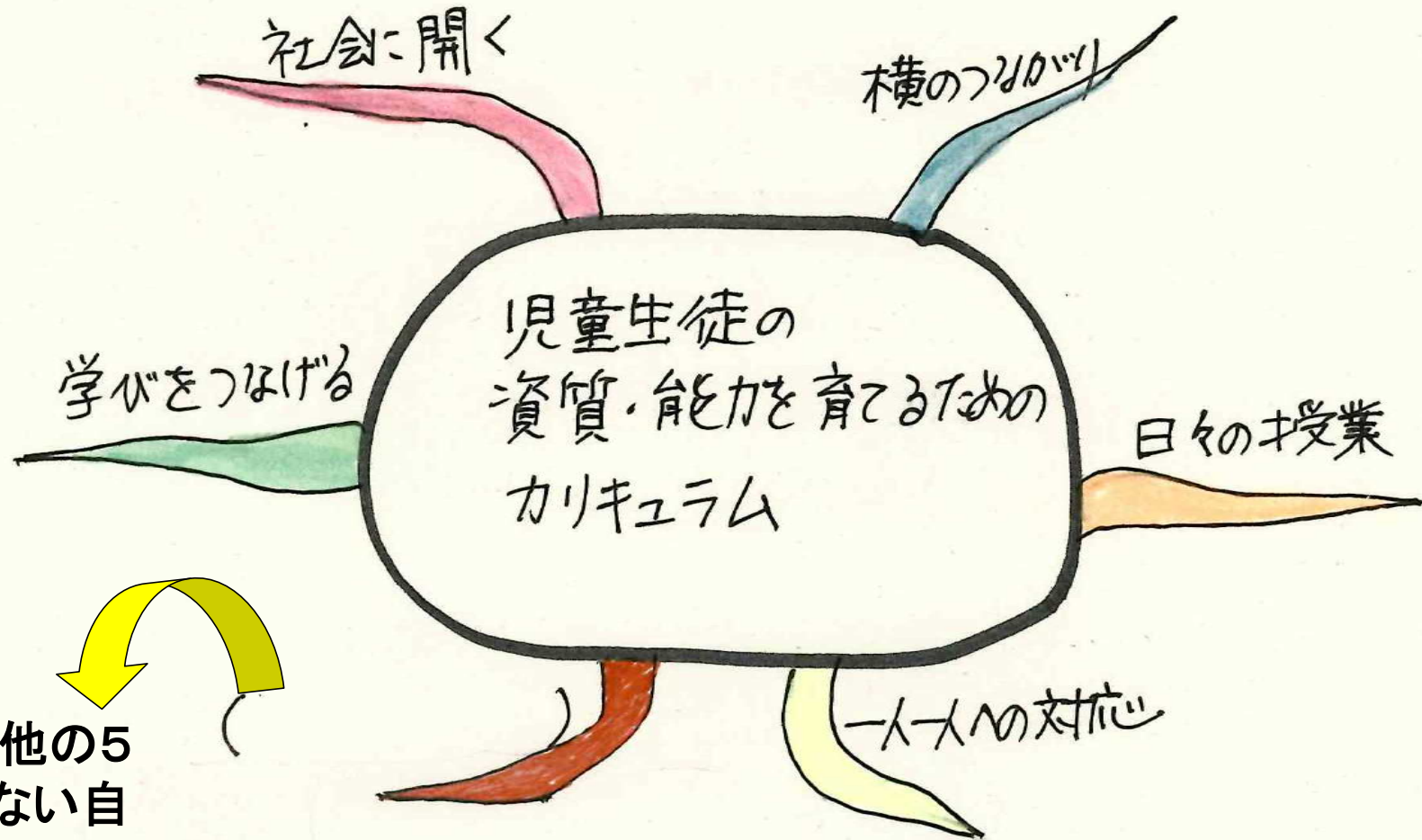


しあわせ



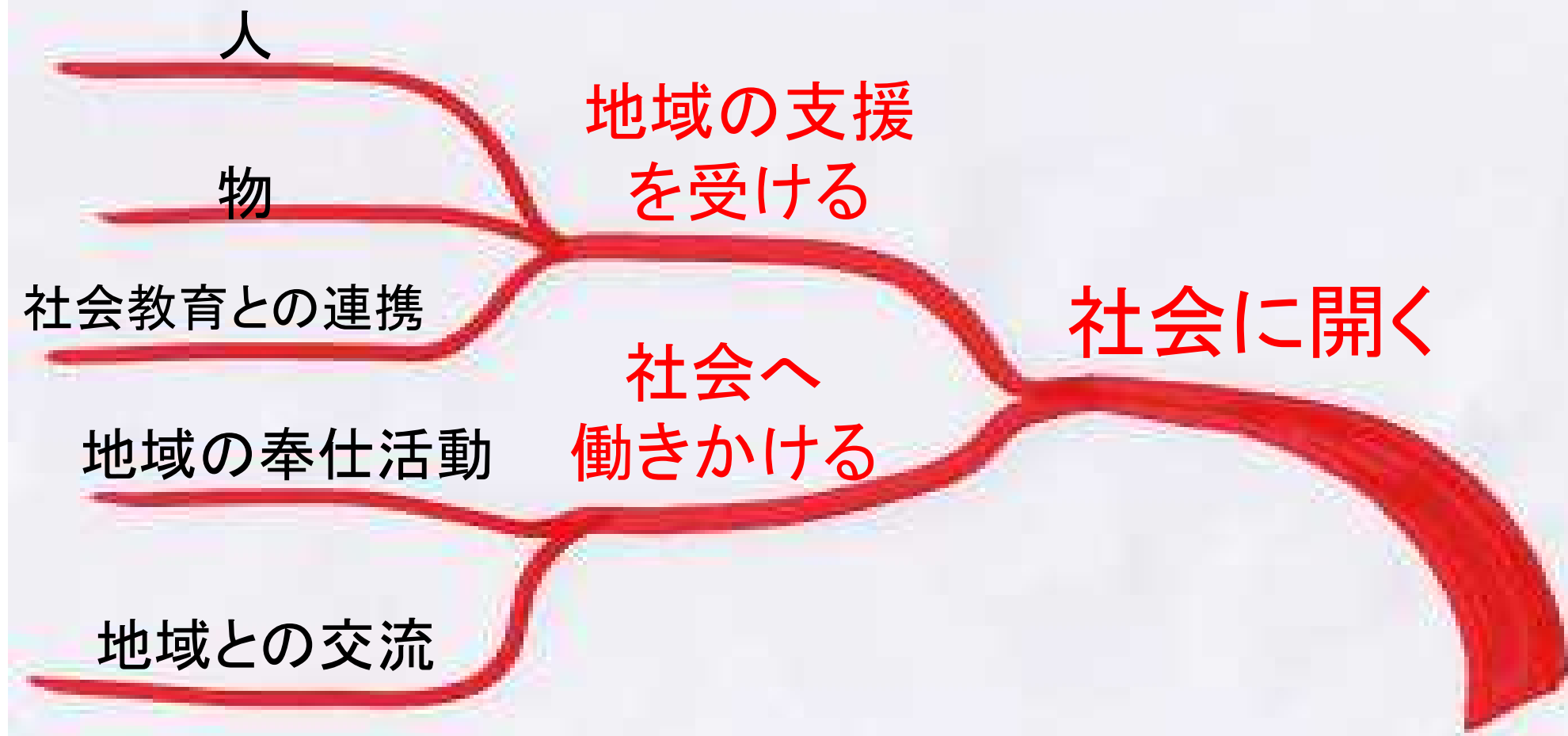
授業改善のための自校の取組①

「児童生徒の資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメント」



※()は他の5
つに含まれない自
校の取組

<記入例>



授業改善のための自校の取組②

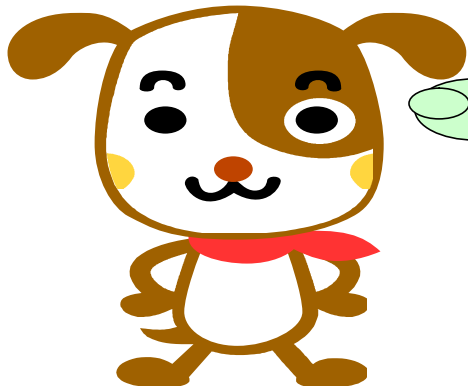
「実践課題と取組」

(

) 特別支援学校 (

) 分校・分教室

実践課題 のキー ワード	目標	
	学校全体の取組	学部・学年の取組
今年度中に実 施できること		
来年度から実 施できること		
そのために今 年度中に準備 すること		



1日の研修
お疲れ様でした。

次期学習指導要領に対応し、
各校の授業力向上を図って
いくには、教務主任の皆さん
の力が必要です。
よろしくお願いします。

